

流れる (1956)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 117分
初公開日 1956/11/20

【解説】

幸田文の同名小説を「めし」「浮雲」の成瀬巳喜男監督が映画化。傾きかけた芸者置屋を舞台に、時代の流れの中で変わりゆく花柳界に生きる女性たちの姿を豪華な女優陣の競演で描いた作品。女性のありのままの姿を一貫して描いてきた成瀬映画のいわば集大成にして成瀬演出のひとつの到達点を示した日本映画を代表する傑作。

大川にほど近い花街にある芸者置屋、つたの家。ここに職業安定所の紹介でやってきた女中・梨花は女将つた奴に面会、呼びにくいからといきなり名を“お春”に変えられてしまったものの無事採用が決まり、さっそく住み込みで働くことになるのだった……。

日本映画を代表する女優たちが与えられた役どころの中でみごとな演技合戦を展開。それでもやはり圧巻は、これが久々のスクリーン復帰だったという往年の大スター栗島すみ子。その指先の動き、語尾の言い回し、どれをとってもこれぞ“芸”とでもいふべき珠玉の演技を披露してくれる。

【クレジット】

監督 成瀬巳喜男
製作 藤本真澄
原作 幸田文
脚色 田中澄江
井手俊郎
撮影 玉井正夫
美術 中古智
編集 大井英史
音楽 斎藤一郎
特殊撮影 東宝技術部
出演 田中絹代 梨花（女中）
山田五十鈴 つた奴（芸妓）
高峰秀子 勝代（つた奴の娘）
中北千枝子 米子（つた奴の妹）
松山なつ子 不二子（米子の娘）
杉村春子 染香（芸妓）
岡田茉莉子 なゝ子（芸妓）
泉千代 なみ江（芸妓）
賀原夏子 おとよ（つた奴の姉）
宮口精二 鋸山（なみ江の伯父）
仲谷昇 佐伯（お浜の甥）
加東大介 高木（米子の前夫）

竜岡晋 村松
栗島すみ子 お浜（水野の女将）